

氏 名 佐々木豊志(SASAKI Toyoshi)

所 属 総合経営学部経営学科

職 種 教授

生年月日 1957 年 4 月 18 日

[履 歴]

[学 歴]

1981 年 3 月 筑波大学 体育専門学群卒業

2006 年 3 月 宮城大学大学院 事業構想学研究科 修士課程終了

2015 年 3 月 宮城大学大学院 事業構想学研究科 博士後期課程終了

[学 位]

1981 年 3 月 体育学 学士 筑波大学

2006 年 3 月 事業構想学 修士 宮城大学大学院

2015 年 3 月 事業構想学 博士 宮城大学大学院

[職 歴]

1982 年 4 月～1995 年 4 月 株式会社日本テレビサービス

1996 年 4 月～現在 くりこま高原自然学校 代表

2003 年 6 月～現在 NPO 法人くりこま高原・地球の暮らしと自然教育研究所 理事長

2009 年 4 月～2020 年 3 月 東北福祉大学 非常勤講師

2011 年 7 月～2023 年 3 月 NPO 法人日本の森バイオマスネットワーク 代表理事

2013 年 4 月～現在 一般社団法人 RQ 災害教育センター 代表理事

2013 年 4 月～2021 年 7 月 都留文科大学 非常勤講師

2016 年 10 月～2017 年 3 月 青森大学 客員教授

2017 年 4 月～現在 青森大学総合経営学部経営学科 教授

2017 年 8 月～現在 認定 NPO 法人みちのくトレイルクラブ 代表理事

[受 賞]

2008 年 10 月 「canpan ブログ大賞」(日本財団)

2008 年 11 月 「社会貢献者表彰」(公益財団法人社会貢献支援財団)

2008 年 11 月 「青少年健全育成成功労者表彰」(内閣府)

2012 年 2 月 「毎日地球未来賞・クボタ賞」(毎日新聞社)

2012 年 2 月 「低炭素杯 2012・地域貢献活動賞」(一般社団法人地球温暖化防止全国ネット)

2012 年 7 月 「第 6 回キッズデザイン賞」(キッズデザイン協議会) 被災地支援施設「手のひらに太陽の家」

2012 年 10 月 「第 7 回モンベル・チャレンジアワード」(モンベルグループ)

[所属学会]

日本野外教育学会、日本環境教育学会、日本自然保育学会、東北地理学会

[教育活動]

[担当科目]

総合経営学部：経営基礎演習（1年）、経営学演習（2年）、保健体育科教育法Ⅳ、ツーリズム概論Ⅰ・Ⅱ、観光マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ、体験型観光事業論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、海外研修Ⅰ・Ⅱ

[卒業研究指導]

2020年度 専門演習 15名
2021年度 専門演習 13名
2022年度 専門演習 15名
2023年度 専門演習 9名
2024年度 専門演習 14名
2025年度 専門演習 16名

[ゼミ指導]

2017年度 1年ゼミ 17名、2年ゼミ 16名
2018年度 1年ゼミ 18名、2年ゼミ 15名
2019年度 2年ゼミ 17名、3年ゼミ 15名
2020年度 2年ゼミ 17名、3年ゼミ 14名、4年ゼミ 15名
2021年度 2年ゼミ 12名、3年ゼミ 15名、4年ゼミ 15名
2022年度 1年ゼミ 12名、3年ゼミ 15名、4年ゼミ 13名
2023年度 1年ゼミ 18名、2年ゼミ 14名、3年ゼミ 13名、4年ゼミ 11名
2024年度 1年ゼミ 17名、3年ゼミ 17名、4年ゼミ 14名
2025年度 1年ゼミ 20名、2年ゼミ 20名、
2026年度 1年ゼミ 20名、2年ゼミ 18名、

[教育指導に関する特記事項]

2017年3月まで、自然学校と呼ばれる民間の教育事業体で自然体験を通じた野外教育、冒険教育、環境教育の指導に携わってきた。人間社会の変化、科学技術の進歩やグローバル経済の発展、このような社会の中で変化してきた国の教育が見落としてきた「地域に根ざした教育」に様々に取り組んできた。自然学校が公の学校と一線を画している一線を画してきた、形式知をより多く覚える概念学習ではなく、暗黙知を獲得するためのプロセスの中で考える体験教育をベースにしている。

[研究活動]

[研究テーマ] 野外教育・冒険教育・観光教育・事業構想学・自然体験型観光

[著書、論文、総説]

著書

・共著「日本型環境教育の知恵」（2008年9月）小学館 96-111頁

- ・共著「ESD 拠点としての自然学校」(2012 年 2 月) みくに出版. 21-25 頁
- ・共著「環境教育辞典」(2013 年 7 月) 教育出版(株) 303 頁、
- ・単著「環境社会の変化と自然学校の役割—自然学校の期待される 3 つの基軸」(2016 年 12 月) みくに出版
- ・共著「持続可能な地域と学校のための学習社会文化論」(2017 年 3 月) 学文社 36-42 頁
- ・共著「DX 時代の人づくりと学び」(2022 年 12 月) 人言洞 135-145 頁
- ・共著「これからの地方創生・関係人口～関係案内人から持続可能な地域の創り手へ」(2024 年 3 月) 人言洞 58-70 頁

論文

- ・「不登校・引きこもり・ニートを支援する自然学校の社会的役割に関する研究」宮城大学大学院事業構想研究科修士論文, 2006 年 3 月
- ・「自然体験学習から災害教育へ—阪神・淡路大震災から東日本大震災までの自然学校指導者の災害への取り組み—」広瀬敏通・佐々木豊志・降旗信一(日本環境教育学会「環境教育」, 22 巻, 2 号, 74-81 頁, 2013 年 1 月)
- ・「震災体験から立ち上がり ESD を実践する自然学校—くりこま高原自然学校の事例から—」佐々木豊志(日本環境教育学会「環境教育」23 巻, 3 号, 60-68 頁, 2014 年 3 月)
- ・「被災地における自然学校の可能性と課題—都市農村交流による新たな学びの拠点—」李曉嘩・佐々木豊志(日本環境教育学会「環境教育」24 巻, 2 号, 2014 年 11 月)
- ・「環境社会の変化と自然学校の役割」宮城大学大学院事業構想学研究科博士論文, 2015 年 3 月

[学会発表]

- ・2009 年 6 月 21 日 第 12 回日本コミュニティ心理学会基調講演「岩手・宮城内陸地震後のコミュニティ再生～くりこま高原自然学校の取り組み～」
- ・2009 年 10 月 3 日 東北地理学会大会「震災復興とジオパーク・新たな地域資源を活かすための地域の取り組み～岩手・宮城内陸地震から荒砥沢ダム上流部地すべり地形の活用の課題～」
- ・2010 年 6 月 20 日 日本野外教育学会第 13 回大会シンポジウム「野外教育における野外という環境の意味」
- ・2011 年 6 月 18 日 日本野外教育学会関東支部会報告「被災地の現状と野外教育ができること」
- ・2012 年 12 月 15 日 日本野外教育学会甲信越支部会講演「震災復興から学ぶ自然体験活動の可能性」
- ・2013 年 9 月 11 日 日本レジャー・レクリエーション学会第 43 回大会 基調講演「Re-Create: 今「生きる力」を試されている」
- ・2015 年 4 月 25 日 日本野外教育学会北海道東北支部 講演「地域で展開する小さな

自然学校の役割」

・2019年3月21日 第130回日本森林学会 S10-5「学生のSDGsのアクション・森林資源と学生の研究と学びの場」

・2024年3月8日 第10回 International Outdoor Education Research Conference

「Igloo Building Programs as a Key Outdoor Education Program for Cold, Snowy Regions」 Toyoshi Sasaki, Kimiharu To, David Fitzgerald

[その他の活動]

自然体験活動と自然環境に配慮した持続可能な社会づくりに関わる活動。環境教育、野外教育、森のようちえん、日本の森バイオマスネットワーク、災害教育、災害支援活動

[公開講座、講演、セミナー](抜粋)

・2006年2月4日 4th International Adventure Therapy Conference 「Adventure Therapy and Therapeutic Culture in Japan the real life therapy for Futoko・Hikikomori・NEET & Autistic children.」

・2006年6月27日 幼児体育指導者講習会 宮城県教育庁・2006年9月9日 自然体験活動指導者講座 二戸市教育委員会・2007年5月4日 防災教育講演 仙台西高校

・2008年12月14日 地域と防災 周南市・2009年8月12日 自然体験指導者養成講座「体験活動の指導」宮城県教育庁・2010年1月19日 青少年問題調査研究会 内閣府

・2010年7月3日「子ども・暮らし・環境」フォーラム4学会+ESD 研究センター「生活を創る、人と関わる。生き方学びの小さな学校～くりこま高原自然学校の場合～」・2012年2月25日 環境エネルギー未来型 山村暮らしセミナー「バイオマスエネルギーと暮らし」福島県県南地方振興局・2012年3月5日 日米円卓会議 アメリカ大使館「ソーシャル・メディアの活用:災害・復興支援を迅速に・効果的に「震災で試されている“生きる力”」

・2012年3月11日 日中災害市民交流フォーラム

2011～国境を越えた市民連携へ～「災害で試された自然学校の役割」・2012年3月14

自然体験活動推進議員連盟 第16回勉強会「自然体験活動の必要性について」・2013年9月7日 登米市公衆衛生大会 基調講演「環境教育と木質バイオマス利用が創造する豊かな地域社会」・2013年7月15日 日本学術会議 環境学委員会環境思想・環境教育分科会 3.11 以後の環境教育検討小委員会 講演・2013年11月22日 体験の風を起そうシンポジウム「子どもたちの未来に必要な体験活動」・2014年8月21

日 ESD 地球市民会議 国連大学「ステークホルダー円卓会議」・2014 年 9 月 2 日 中国自然学校シンポジウム in 大理 講演「自然学校と冒険教育」「日本の森のようちえん」・2015 年 3 月 17 日 国連防災会議 サイドシンポジウム「災害ボランティアの生きる力 調査報告」・2015 年 4 月 10 日 高尾の森自然学校開校式 基調講演「未来の森つくりと環境教育」セブンイレブン記念財団・2015 年 12 月 5-6 日 森のようちえん指導者養成講座 森のようちえん全国ネットワー・2016 年 8 月 4 日 学校の森・子どもサミット夏大会「森林環境教育が暮らしに直結するために」林野庁・学校の森・子どもサミット実行委員会・2016 年 9 月 3 日 環境学習セミナー「暮らしを創造する生きる力を生む冒険、自然体験」NPO 法人自然文化誌研究会・2017 年 2 月 24 日 自然から学ぶ場と人の全国フォーラム「パイオニア、今を語る」日本環境教育フォーラム

2024 年 9 月 14 日いわて環境塾「ESD の概念を学びながら、持続可能な未来や社会について考えよう」

[学内各種委員]

2017 年度:学生委員会委員、観光文化研究センター員、美術サークル顧問。2018 年度:学生委員会委員、観光文化研究センターセンター長、自然サークル SDGs 顧問、美術サークル顧問。2019 年度:観光文化研究センターセンター長、SDGs 研究センター副センター長 入試管理委員会委員、自然サークル SDGs 顧問、美術サークル顧問
2020 年度:観光文化研究センターセンター長、SDGs 研究センター副センター長 自然サークル SDGs 顧問、美術サークル顧問。2021 年度:観光文化研究センターセンター長、SDGs 研究センター副センター長 総合研究所副所長、自然サークル SDGs 顧問。2022 年度:観光文化研究センターセンター長、SDGs 研究センター副センター長 総合研究所副所長、自然サークル SDGs 顧問、